

# 知っていますか？ 郷土の民話

## 天狗の宿り木

今月は町指定の天然記念物である、長泉寺のコウヤマキについての伝説を紹介します。長泉寺は1504（永正元）年に上三川城主今泉盛朝によって建てられた寺院で、このコウヤマキは、この時に、寺院を開山した天英詳貞和尚が植えた木とか、上三川城主今泉盛朝が植えたとの伝説が伝えられています。昭和57年8月の台風によって幹が折れた際に、年輪を数えたところ、樹齢500年との結果が出たことから、伝説があながち嘘ではないことが証明されています。今から遡ること500年前、まさに長泉寺が開かれたころ、下野国中に名が知られた天英和尚の教えを請う者が、後を絶ちませんでした。ある時、天空と名乗る修行僧が寺を訪れ、修行を請いました。天英和尚はこれを受け入れ、天空は5年間に渡り、修行に精進したところ、天狗に姿を変え、和尚に長年の指導を感謝し、お礼に「火防除」と刻まれた木印を残して、姿を消してしまいました。それから長泉寺で異変があるときは、コウヤマキの木のあたりで必ず靈験が現れたということです。

実は、この天狗の宿り木のお話は、もう一つのお話が伝わっています。長泉寺を開山した天英和尚は、稀代の名書家でもありました。ある日老人が天英和尚のもとを訪れこう言いました。

「私は今夜神々と書を競うことになっているが、不勉強なことから、字が下手だと笑われてしまわないか心配だ。どうか一晩あなたの手を貸してくれないか。」和尚は不思議に思いましたが承知すると、老人は「頼むぞ。」と言い、立ち去りました。すると和尚の右腕は痺れて動かなくなりましたが、夜遅くに再び老人が訪ねてくると不思議と痺れがなくなりました。老人は「あなたの腕のおかげで今夜の競書に勝つことができました。お礼に未来永劫長泉寺を守ろう。」と言うと、大天狗に姿を変え、コウヤマキの木を昇り、闇空に消え去りました。以来、このコウヤマキを天狗の宿り木、下にある石を天狗の腰掛石と言ったそうです。

伝説や民話には、同じ話でも、内容が異なるものが多々あります。話の本筋については同じでも、長い間、同じ地域の中でも、伝わった家・場所の違いなどで、話が変化したのでしょうか。これも伝説や民話の面白いところの一つです。



長泉寺のコウヤマキ

# 広報俳句

ビルの間に遠き故郷稲光

稲妻や切り絵の如く岳の影

浜野 正男

秋農は似合わぬ齢となりにけり

大八木 喜重郎

見渡せる筑波嶺までの稲穂波

柳田 石村

夏の蝶もつれてうまく飛べぬ仲

蓬田 四方

目に見えぬ風と遊ぶや萩の花

伊沢 静香

亡き母に名を呼ばれたき秋の暮

濱野 マス子

秋晴れや出陣のごとコンバイン

阿部 信子

燈火親し活字追ひゆく虫眼鏡

野沢 花枝

猫じゃらし風にすがりて身をまかす

上野 キミエ

武井 ミイ子

